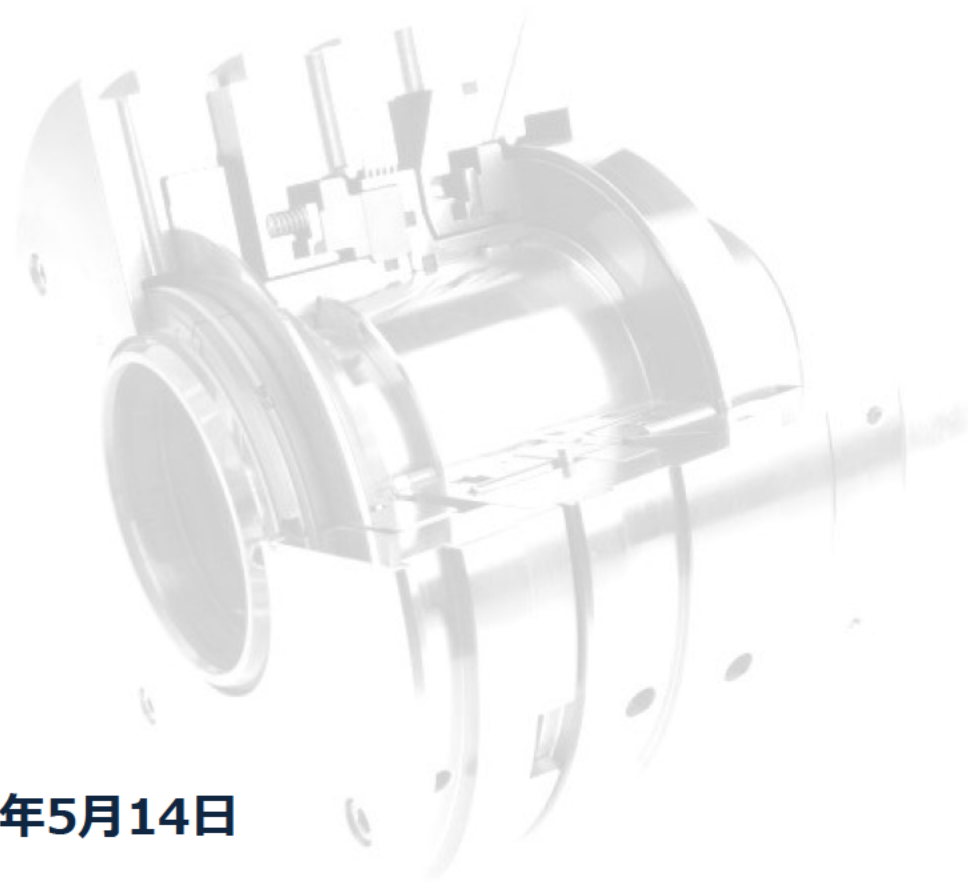


イーグル工業株式会社 2025年3月期 | 決算説明会

2025年5月14日



1. 25年3月期決算概要・26年3月期業績予想

2. 今後の事業展開・各セグメントの取り組み

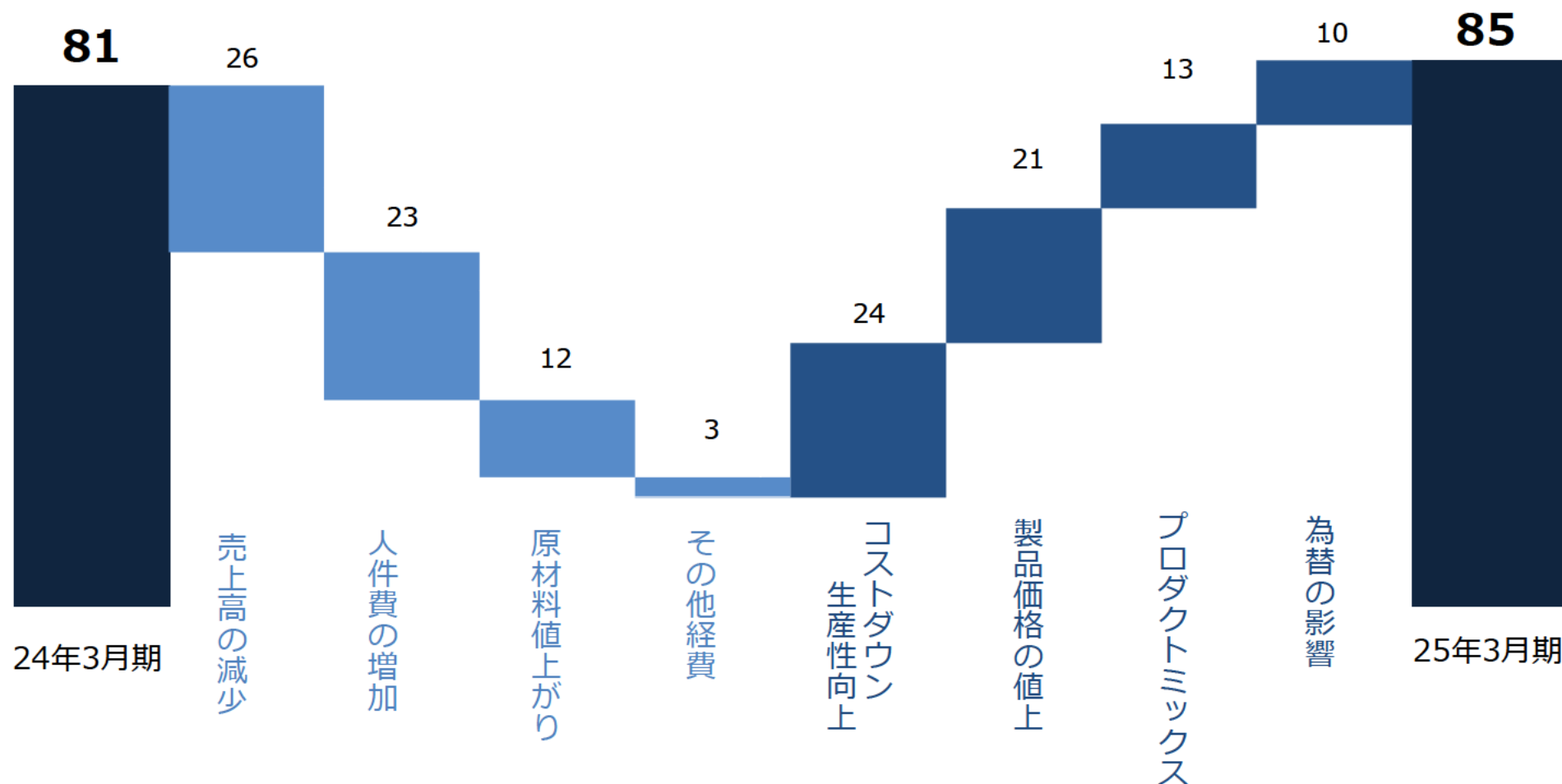
単位：億円

	24年3月期 実績	25年3月期 実績	前期対比	
売上高	1,670	1,682	11	101%
営業利益	81	85	4	105%
経常利益	138	120	▲18	87%
親会社純利益	75	49	▲26	65%

(平均実勢為替レート)

1ドル	144.6円	152.6円
1ユーロ	156.7円	163.9円

単位：億円



単位：億円

		24年3月期 実績	25年3月期 実績	増減	前期 対比
自動車・建設機械	売上高	905	876	▲29	97%
	営業利益	16	6	▲11	35%
一般産業機械	売上高	385	408	24	106%
	営業利益	32	54	22	167%
半導体	売上高	151	126	▲25	83%
	営業利益	▲8	▲38	▲30	—
舶用	売上高	150	180	31	120%
	営業利益	34	53	19	156%
航空宇宙	売上高	80	91	11	113%
	営業利益	6	10	4	164%
合 計	売上高	1,670	1,682	11	101%
	営業利益	81	85	4	105%

単位：億円

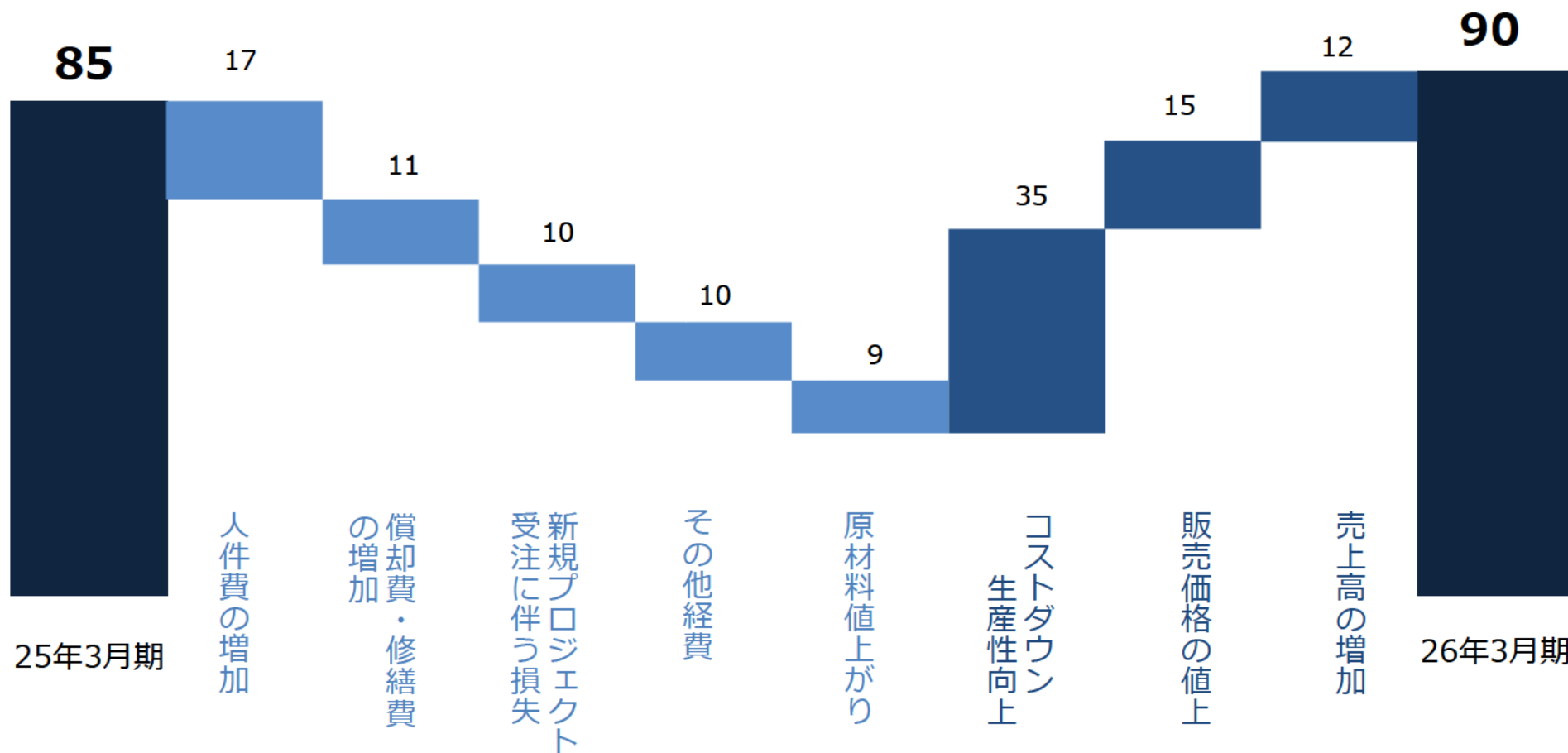
	25年3月期 実績	26年3月期 業績予想	前期対比	
売上高	1,682	1,700	18	101%
営業利益	85	90	5	106%
経常利益	120	131	11	109%
親会社純利益	49	85	36	174%

（平均実勢為替レート）

（前提とする為替レート）

1ドル	152.6円	145.0円
1ユーロ	163.9円	160.0円

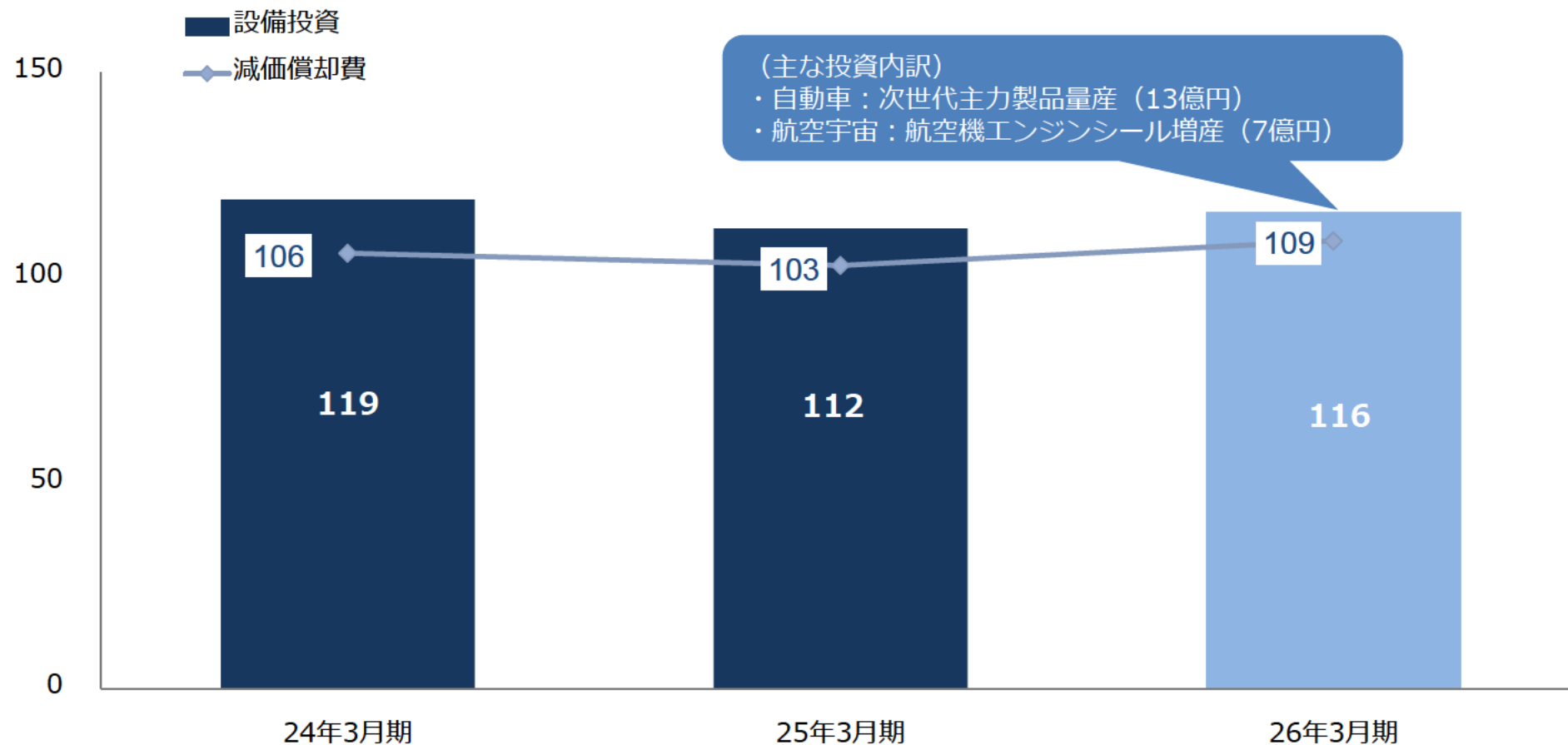
単位：億円



単位：億円

		25年3月期 実績	26年3月期 業績予想	増減	前期対比
自動車・建設機械	売上高	876	841	▲35	96%
	営業利益	6	2	▲4	36%
一般産業機械	売上高	408	428	20	105%
	営業利益	54	50	▲4	93%
半導体	売上高	126	157	31	125%
	営業利益	▲38	▲15	23	—
船用	売上高	180	178	▲2	99%
	営業利益	53	45	▲8	85%
航空宇宙	売上高	91	96	5	105%
	営業利益	10	8	▲2	78%
合 計	売上高	1,682	1,700	18	101%
	営業利益	85	90	5	106%

単位：億円



		24年3月期	25年3月期	26年3月期(予)
一株当たり純資産	円	2,570.06	2,517.54	2,582.48
一株当たり純利益	円	160.84	107.51	187.52
一株当たり配当額	円	80	100	100
配当性向	%	49.7	93.0	53.3
DOE	%	3.4	3.9	3.9
ROIC	%	3.6	3.7	4.0
ROE	%	6.8	4.2	7.4

- ・ 中期経営計画期間中の株主還元は計画どおり総額190億円を目途に実施
(今期は年間配当100円を継続)
- ・ 来期以降、収益向上によりROIC 6 %、ROE 9 %以上の早期達成を目指す

1. 25年3月期決算概要・26年3月期業績予想

2. 今後の事業展開・各セグメントの取り組み

●現状の経営状況の分析と課題

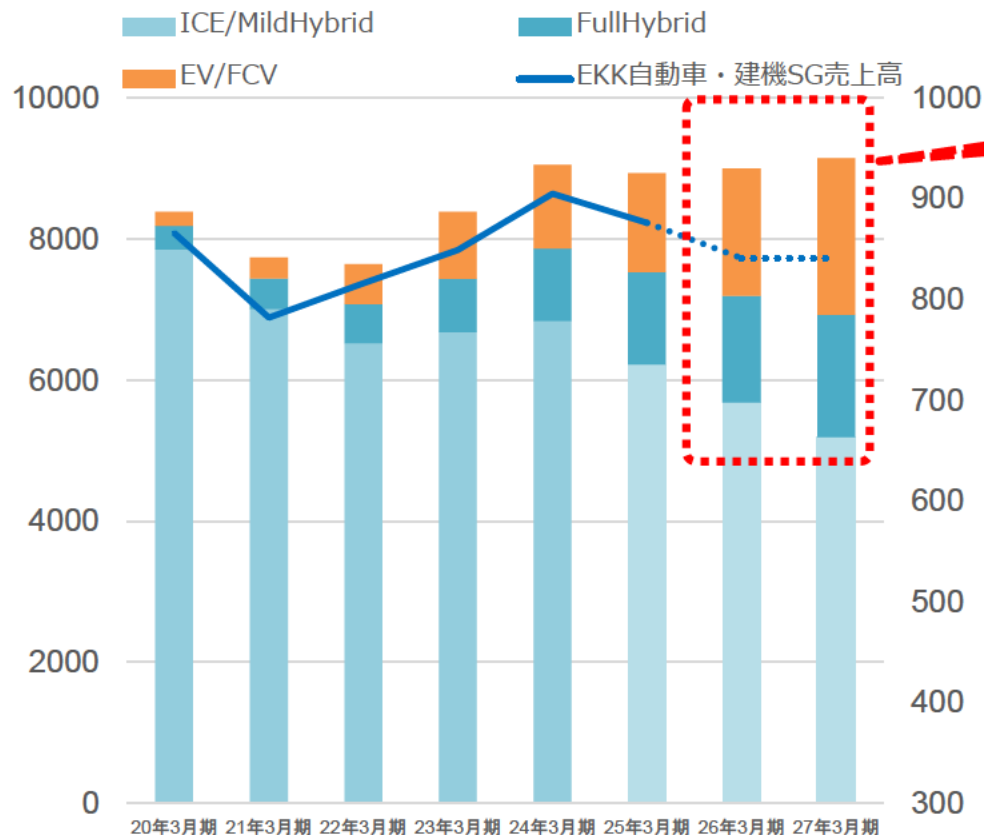
(現中期経営計画開始時点(24年3月期)からの事業環境の変化)

- ・自動車市場におけるEV化の加速による、自動車・建設機械業界向け事業の収益力低下
- ・半導体市場における当社製品の販売回復遅れ
- ・一般産業機械業界向け事業、舶用業界向け事業、航空宇宙業界向け事業は計画以上の収益向上



今期（26年3月期）は半導体業界向け事業の回復により収益拡大を図る
来期以降、自動車・建設機械業界向け事業における新製品販売の拡大とその他事業の成長も加え、更に収益バランスのとれた事業ポートフォリオ構築を進める

グローバル自動車生産台数（万台）



（今後の事業動向）

グローバル自動車生産台数EV/FCV、HVの拡大継続により弊社既存主力製品の販売は減少傾向

既存主力製品の収益性向上

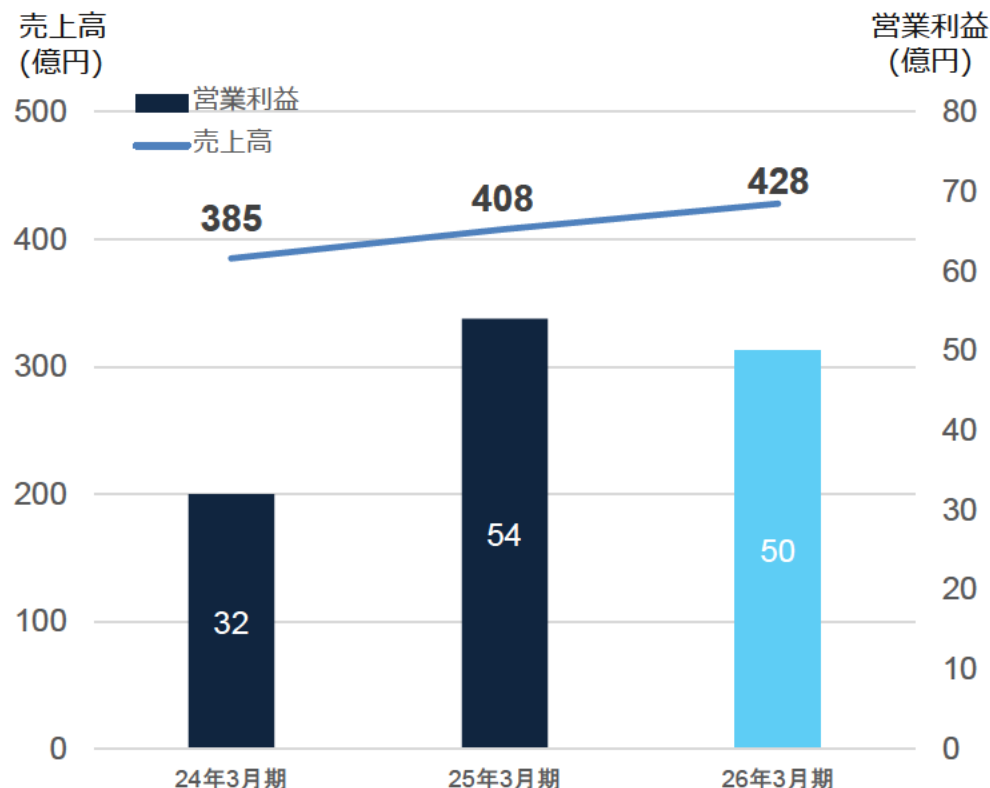
(継続したコストダウン・更なる販売価格の見直し)

次世代主力製品を選定・拡販推進



- ・新規引合対応と受注確保に向けた取り組みを継続
- ・サスペンション用バルブは今後拡大見通し

一般産業機械業界向け事業 | 売上高・利益推移見通し

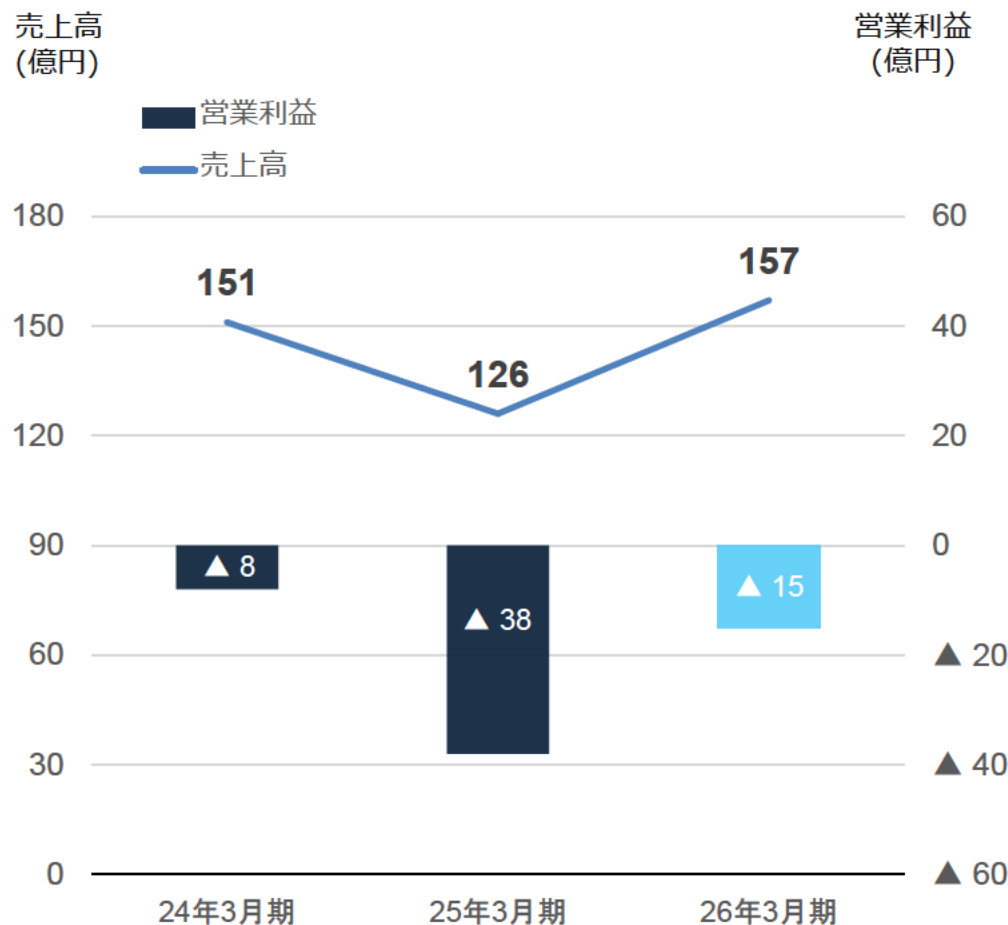


一般産業機械業界向け事業のビジネスモデル



インド・アジアパシフィック地域での新規受注とアフターサービス確保による中長期的な収益拡大に努める

半導体業界向け事業 | 売上高・利益推移見通し



(25年3月期の状況)

市場において当社製品の在庫過多により販売が大幅減
先行投資により固定費も増加し計画を下回る損失

(26年3月期の見通し)

在庫調整は着実に進んでおり25年3月期の下期から
販売は徐々に増加傾向

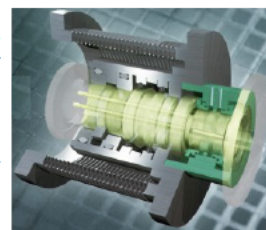
幅広いシール製品を活かした新製品開発販売により
来期以降の黒字回復を図る

高機能Oリング



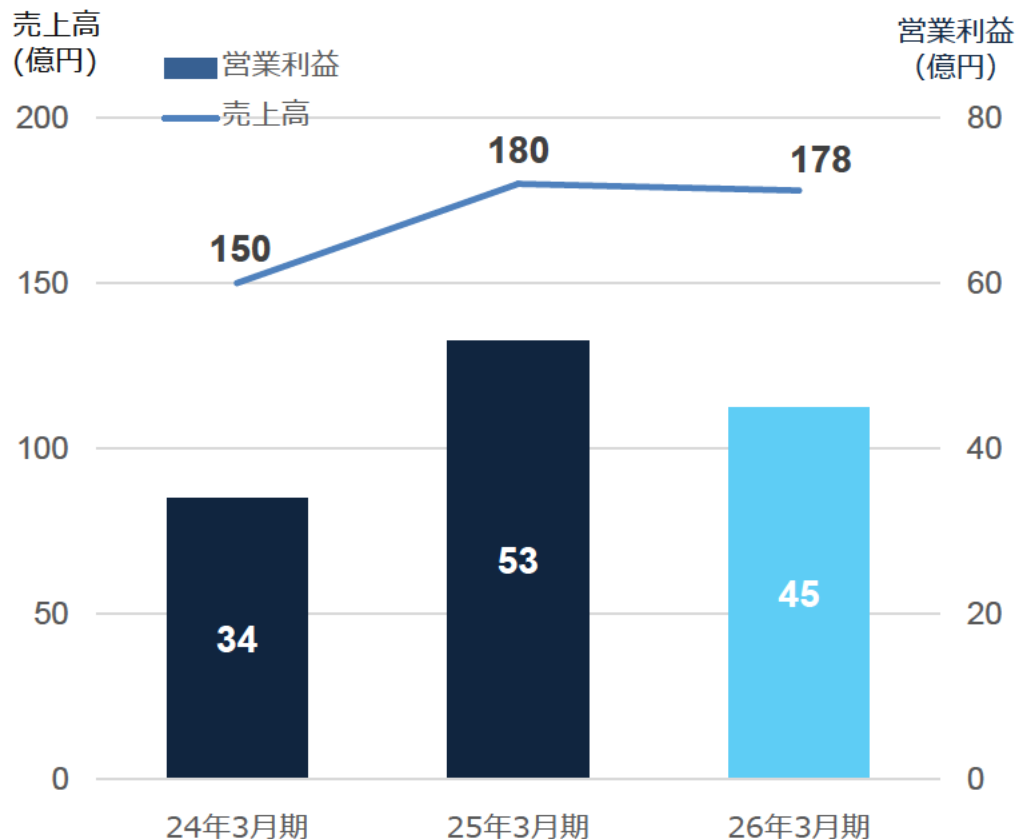
耐薬性・熱安定性
(耐熱340℃)を
持つ合成ゴム
新材料開発・海外
顧客の拡販継続

ハイブリッドシール



半導体製造装置
メーカーからの
引合による開発
継続

船用業界向け事業 | 売上高・利益推移見通し



物流増加・新造船建造継続により売上は同程度見通し、米国の中国籍船への各施策による影響は注視

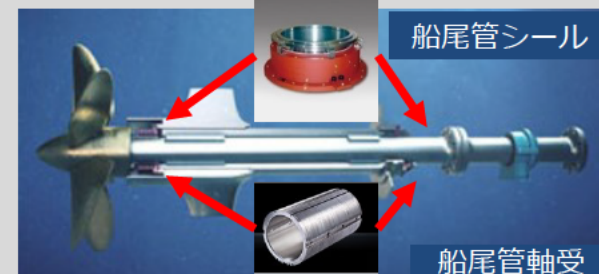
船用業界向け事業のビジネスモデル



新規品納入



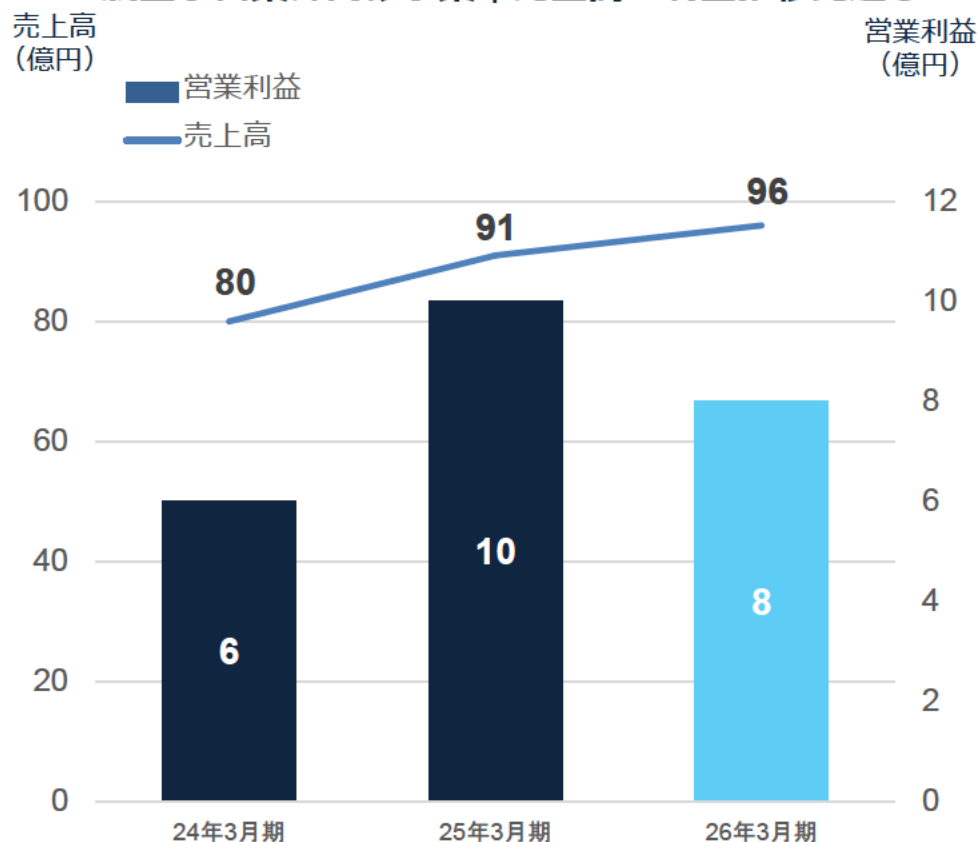
主要製品



アフターサービス/修繕

入渠・定期検査
(5年毎)

航空宇宙業界向け事業 | 売上高・利益推移見通し



航空機 (民間・防衛)

- 海外エンジンメーカーからの引合増加/開発継続
- 防衛関連製品の生産拡大
- 次期戦闘機エンジンへの採用に向けて活動中



次期戦闘機イメージ

出典：防衛省ホームページ

宇宙産業

- 24年11月
H3ロケット4号機
通信衛星「きらめき3号」打上げ
- 25年2月
H3ロケット5号機
測位衛星「みちびき6号機」打上げ



出典：qzss.go.jp

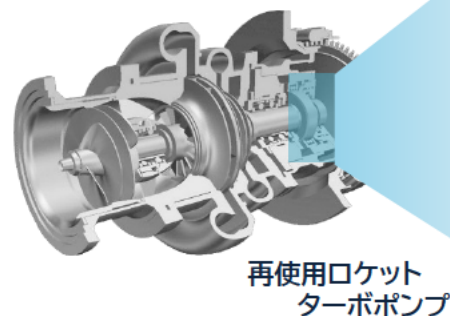
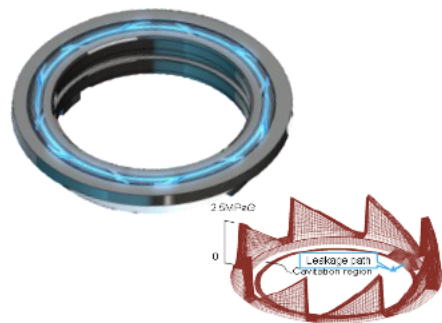
「みちびき6号機」



H3ロケット5号機

航空機・宇宙関連ともに販売が増加し、今期以降100億円以上のビジネスに成長

再使用ロケットターボポンプ用テクスチャシール

再使用ロケット
ターボポンプ

表面テクスチャリングシール

GlideX™

**2014～2017**
基礎研究フェーズ表面テクスチャリング技術
の適用検討

- 極低温流体への対応
- 高周速への対応
- 安定したリーク性能

2018～2023
要素技術開発フェーズ極低温環境における
要素試験の実施

- 耐久性能確認試験
- 実機運転条件試験
- LH₂/LOX/LNG試験

2024～
実機適用検討フェーズ再使用ロケットターボポンプ
実機への適用検討

- 実機を模擬した加振試験
- 顧客試験へのシール提供
- 実機搭載に向けた製造対応



Fly Sky High !